

とうきょうすくわくプログラム活動報告

令和6年4月
妙福寺保育園 5歳 うめ組

1. 活動のテーマ 「花」

<テーマを設定した理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自園は園庭や付属するお寺の境内や林などに緑豊かな環境があり、季節の花々も多く咲いている。また活動の時期は「花まつり」という仏教行事があり、各家庭から花を献花してもらう為、行事が終わった後その花を使った活動を豊富に楽しむことが出来る。子ども達は春先に咲くオカメザクラや梅、椿の花から花に対して親しみを持ち始める姿があり、林へ散策に行くとすみれやたんぽぽといった花が咲いていることに気付く姿があった。最初は摘み取るだけだったがそこからままごとや花を綺麗に飾りたい、花束にしたい、と様々な遊びに発展していく様子が見られた為、テーマを花にした。

2. 活動スケジュール

- 4月第一週→林、園庭の花探し。花遊びのリクエスト。
- 4月第二週→花の絵画。トンカチで花の模様を出す。
- 4月第三週→白い花に色を付ける。図鑑で花を探す。
- 4月第四週→花を凍らせて観察。



3. 活動の為に準備した素材や遊具、環境の設定

花の図鑑を季節の絵本コーナーに設置した。また親しみが持てるように机や手洗い場などに花を飾り、水替えも子ども達が行った。また戸外はルーペやトンカチ、すり鉢、クリアカップなどを手に取れる場所に置き、子どもたちが行ってみたいと思った時に行える環境を設定した。

(準備した素材や遊具)

花・皿やフライパンなどのままごと遊具・ふるい・ルーペ・図鑑・トンカチ・木板・食紅・クリアカップ・障子紙・ラミネーターフィルム・すり鉢・すりこぎ

4. 探究活動の実践

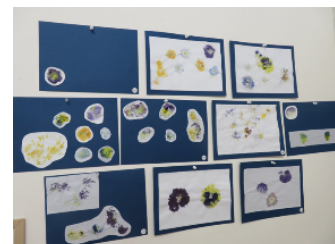
花の活動を始める前、林へ散策に行くとすみれやたんぽぽといった花が咲いていることに気付いた。最初は摘み取り集めていたがそこからままごとに使ったり、花を綺麗に飾ったり、花束にしたりと様々な遊びに発展していった。園庭ではプラム、オカメザクラの花が散っていることに気付き集めた物を箱に詰めていると、砂が混じることが嫌がる子がいた為、ふるいを使うことを勧めるとふるいにかけて、大変になると「友達に手伝ってもらおう！」と他児を誘い協力してふるいにかける姿があった。また、花が2輪くっついて落ちている物を見つけると「これはレアなんだよ」と得意げに話す姿があった。



花の絵画では入園式で飾った花を使って鉛筆と絵の具で絵画をした。大人数で行い始めたが、描き方がわからない子が多く、1チームの人数を4人にすると一人ひとりに寄り添い気付きを共有する事が出来るようになった。観察の時間は、色の移り変わりや花びらの生え方などを具体的に子ども達と言葉にしながら花を見ていった。「茎の色が変わってる」「花びらが多くて真ん中に黄色い所がある」など言語化する姿があった為、気付いた所を他児と共有しよく褒めていくと、子どもたちの観察に対する言葉での表現が更に増えていった。描く画用紙は最初黄色と白を用意し好きな方を選んで描けるよう準備していたが、絵具が画用紙によって反映しづらくなることがあり職員同士で話し合い花ごとに画用紙を指定して描いた方が絵具の色をしっかりと反映できるのではないかということになった。その為花の色ごとに花瓶で分け、画用紙も明るい色を反映しやすい紺と、濃い色を反映しやすい黄色や黄緑色の3色にした。絵画では鉛筆で線画を行ったあと中筆を使って描いていった。子ども達は集中していくと絵が小さくなってしまいう姿があり、実物をよく見るよう伝えたり、同じくらいの大きさで描くと色も塗りやすくなることを話したりしていくと大きく描くことが出来る子もいた。しかし小さく描いてしまう子も多かったこともあり、中筆での色付けでは線を越え塗り潰してしまう子が多かった。その為、筆を細筆に変えると細かい所も塗りやすくなり塗りつぶしが減った。また描き方がわかってくることで絵画を更に楽しみ自由時間にも花を描く子がいた。



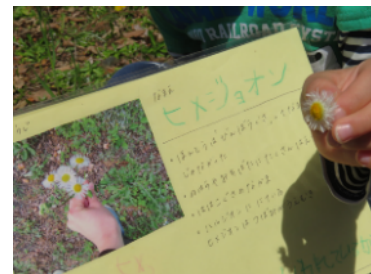
トンカチ遊びでは花を和紙で挟み、トンカチで叩くと花の色味に移り和紙に花の形が浮かび上がった。ある女の子はガーベラやカーネーションなどの分厚いものを選んで行っていたがうまく模様が出なかった。しかしそこで出来ないから飽きてしまうのではなく周りの子の成功体験をよく見ておりその中で薄さのある花（パンジー）や花びらのみの方がきれいに色が出ることに気が付き上手に色が出ると出来上がった和紙を嬉しそうに職員に見せる姿があった。出来上がった和紙は壁に二重台紙にしていつも絵本を読んでゆっくりするコーナーに飾ると、友達の出来上がった物を見て「○○ちゃんみたいにきれいに作りたい」という子や興味がなかった子がやってみたくと話す姿があった。



話し合いから、子ども達のリクエストで花に色を付けて見たいというものがあった為、職員が調べてみると食紅で作った色水を使うことで花に色を付けることが可能であることが分かった。市販の花でも同じような方法で色付けをされていることがあるとのことだった為、白い花に食紅で作った濃い目の色水に花を浸けてみた。白い花の中でも、カスミソウ、ガーベラ、バラが色が出やすいとのことだった為、園では花壇で育てているデイジー、花まつりで献花されたカスミソウ、菊、カーネーションで行ってみた。朝礼で子ども達の前で実際に見せながら色水につけ目の届く場所に飾っておいた。遊びの中でも変化があるかこまめに観察する子がいた。浸けてから30分ほど経つとじんわりと色が出てき始めたことに気が付くと、周りに知らせそこから周りの子も気にかけて観察するようになった。花の色付けは花の種類ごとに様々で、その違いにも子ども達は気付いていた。



子ども達と話をする中で林の方が花が生えていることに気が付いた子ども達。林へ散策に出かけ林が見えてくると沢山の色付く花に「お～！」と思わず声が漏れる姿があった。見つけた花を虫眼鏡で観察したり、図鑑と照らし合わせたりする子がいた。以前の年長組の作った花の図鑑は実際に身近で生えている花が載っている為、照らし合わせがしやすく子どもたちもよく見比べていた。境内には大きなわかりやすい花だけでなく、小さな花々も咲いていた。大人が見落としてしまうような小さな花も子ども達は見つけることが出来ていた。子どもたちの中で花に対するアンテナが少しづつ広がっているのを感じる。



子どもたちと牛乳パックや容器に花と水を入れ冷凍庫で凍らせると子どもたちは出来上がりを楽しみに待つ姿があった。出来上がった氷を見せるときれいに固まっていて子どもたちも喜んでいて。氷を手に乗ったり、透明な板に擦り付けたりとじっくり観察してみた。何かに触れることで溶けるスピードが速くなることに気付く子がいたり、春の暖かな日差しがあったこともあり、純粹に冷たさを楽しんだりしている子もいた。虫眼鏡で観察してみると中にある氷の白い結晶や花の間に出来た空気の塊に気付く子もいた。トンカチで氷を割ってみると力加減が難しく、氷だけでなく中の花を割ってしまう子も多かった。その中である男の子は割れないように力を加減して少しずつ花を取り出していき成功すると満足げな笑顔を見せていた。またこの子は花びらと花びらの間にも氷があることに気が付き気づき丁寧に取り外す姿があった。溶けた氷水は花の色素が染み出ていることに気が付き氷ごとに混色して楽しんでた。



5. 振り返り

色づく花々に気付き遊び始めた子ども達の姿から始まった今回の花を使った活動は、一つ一つの活動を通していく中で子ども達の花に対するアンテナが段々と研ぎ澄まされていく姿やそこからさまざまな子ども達のやってみたいと思ったことを一緒に考え実現していったことが良かったように感じる。環境設定の中で予測された行動と違う姿もあったが、その都度職員間で話し合いを行うことで軌道修正して行くことが出来たことが良かったと感じる。